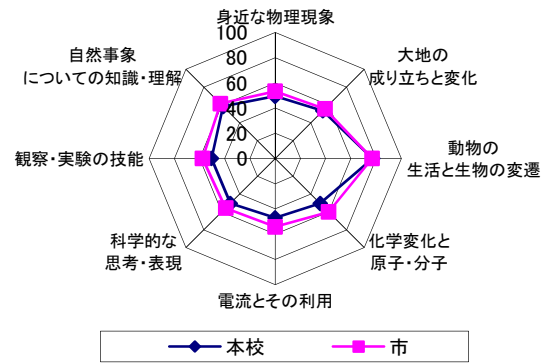


宇都宮市立国本中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	49.4	53.4
	大地の成り立ちと変化	53.5	55.7
	動物の生活と生物の変遷	77.3	76.9
	化学変化と原子・分子	50.4	60.0
	電流とその利用	47.1	54.2
観点別	科学的な思考・表現	50.4	55.6
	観察・実験の技能	50.6	57.7
	自然事象についての知識・理解	58.4	61.5



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	市の平均より4ポイント下回っている。圧力に関する身近な例を挙げる問題が特に低い。	日ごろの授業から身近な現象の例を取り上げ、学習内容との関連性を図り、思考力を高める指導を工夫する。
大地の成り立ちと変化	市の平均より2.2ポイント下回っている。火成岩のでき方を説明する記述問題が特に低い。	観察・実験の結果をまとめる際に、文章や図などで自ら表現する活動を増やし、思考・表現の力を高めていく。
動物の生活と生物の変遷	市の平均より0.4ポイント上回った。特に、生物の進化に関する問題で3.9ポイント上回った。	実験・観察を多く取り入れたり、視聴覚教材を利用するなど、生徒の興味・関心をさらに高める授業を工夫する。
化学変化と原子・分子	市の平均より9.6ポイント下回った。酸化・還元によりできる物質や、実験の操作手順、化学反応式を答える問題が特に低い。	実験を行っても、その目的や実験操作の意味をよく理解していない生徒が多いのだろう。実験を行う前の導入に重点をおく必要がある。化学反応式は繰り返し訓練していくしかない。
電流とその利用	市の平均より7.1ポイント下回った。家庭の電気配線の回路について考える問題が著しく低い。	電気は生活に身近な存在なので、直列・並列回路を実際の生活の場面で考えさせたり、教材を工夫して生徒の興味・関心を高めていく。